

アハマッド・イズラン駐日マレーシア大使との懇談会を開催

開催日：2016年5月12日(木)

場 所：経団連会館

来 賓：アハマッド・イズラン・ビン・イドゥリス 駐日マレーシア特命全権大使

経済広報センターでは、わが国経済界と各国要人との対話を積極的に推進している。この一環として、去る5月12日、マレーシアのアハマッド・イズラン駐日大使を招いた懇談会を開催した。経済界側からは、主要業界幹部等、25名が参加し、活発な意見交換が行われた。

アハマッド・イズラン大使の発言概要は次のとおり。

日本はマレーシアにとり、独立後、最初に外交関係を結んだ国の一つである。1982年のルック・イースト政策の開始以降、両国は貿易・投資、人的交流など幅広い分野で関係を発展させてきた。

日本はマレーシアにとって最大の貿易・投資相手国の一つである。2009年から2015年の間、日本の製造業関連投資は355件、投資額は98億4000万ドルにのぼった。昨年5月、両国政府は戦略的パートナーシップに合意し、その一環として、経済関係をより重視する「ルック・イースト政策2.0」が開始された。

マレーシアの経済状況は良好であり、昨年のGDP成長率は5%に達した。今後も堅調な成長を遂げることが可能である。

マレーシアの場合、自由貿易協定は閣議決定だけで承認できる。しかし、TPP(環太平洋経済連携協定)の場合には、各界の関心・注目が高かったことから、敢えて、



議会の承認を得た。マレーシアにとり、TPPの経済効果は非常に大きい。繊維、自動車部品等の輸出増が期待されるし、国内の投資規制も改革されていく。より多くの日本企業の投資を期待している。

以 上